



TOHOKU  
UNIVERSITY

# スポーツ現場における現状

-威圧的な指導とスポーツ傷害の調査から-

東北大学大学院医工学研究科

永富良一



# COI

- 本講演で紹介する調査はアサヒ飲料株式会社の東日本大震災復興支援事業「みやぎスポーツメディカル事業」の一環として実施された。



TOHOKU  
UNIVERSITY

それは暴力か指導か？



## みやぎスポーツメディカル事業

- 東日本大震災で大きなダメージを被った地域で子どもたちが安心して元気にスポーツを楽しめるようにしたい！
  - － 宮城県
    - 宮城県体育協会(現スポーツ協会)・宮城県スポーツ少年団
    - 東北大学
  - － アサヒ飲料株式会社
- スポーツ傷害の予防！
  - － 実態調査

# スポーツ傷害(外傷・障害)の発生因子

## 内的要因

- 性 *Frisch,A. et al. 2009*
- 年齢 *Emery,C.A. et al. 2005*
- 身長、体重、BMI *Richmond,S.A. et al. 2013*
- 解剖学的要因
  - 関節弛緩性 *Witvrouw,E. et al. 2000*
  - 筋力
  - 柔軟性
- 心理的要因 *Weinberg,R.S. et al. 2003*

など

## 外的要因

- トレーニング負荷量 *Hulsegge,G. et al. 2011*
- 練習頻度 *Pluim,B.M. et al. 2006*
- 生活習慣 *Auvinen,J.P. et al. 2010*
- 競技レベル *Caine,D. et al. 2016*
- 使用する用具 *McBain,K. et al. 2012*
- 指導者 *van Wilgen, C.P. et al. 2012*

など

選手自身の心理的要因や指導者との関係が要因として報告されている



TOHOKU  
UNIVERSITY

みやぎスポーツメディカル事業

## 目的・対象

### ➤ 目的:

- スポーツ活動におけるスポーツ傷害の現状と、その要因を検討すること

### ➤ 対象

- 平成25年度宮城県スポーツ少年団に登録されている  
小学1年生から中学3年生までの団員(25,469名)



TOHOKU  
UNIVERSITY

## 選手（団員）アンケート

このアンケートはスポーツ少年団の入っている選手（団員）が、できるだけ一人で答え  
てください。どうしてもわからない時は、お父さんやお母さんに相談しながら記入してく  
ださい。

アンケートの質問については、あまり考えこまずに答えてください。

このアンケートは、みなさんがなるべくケガをしないように楽しくスポーツ続けること  
ができることを目的とした調査です。答えてもらった内容は、東北大学大学院医学系研究科  
創生応用医学研究センタースポーツ科学コアセンター、宮城県体育協会、宮城県スポーツ  
少年団が責任をもって管理し、他人に知られることはありません、安心して答えてくださ  
い。よろしくお願ひします。

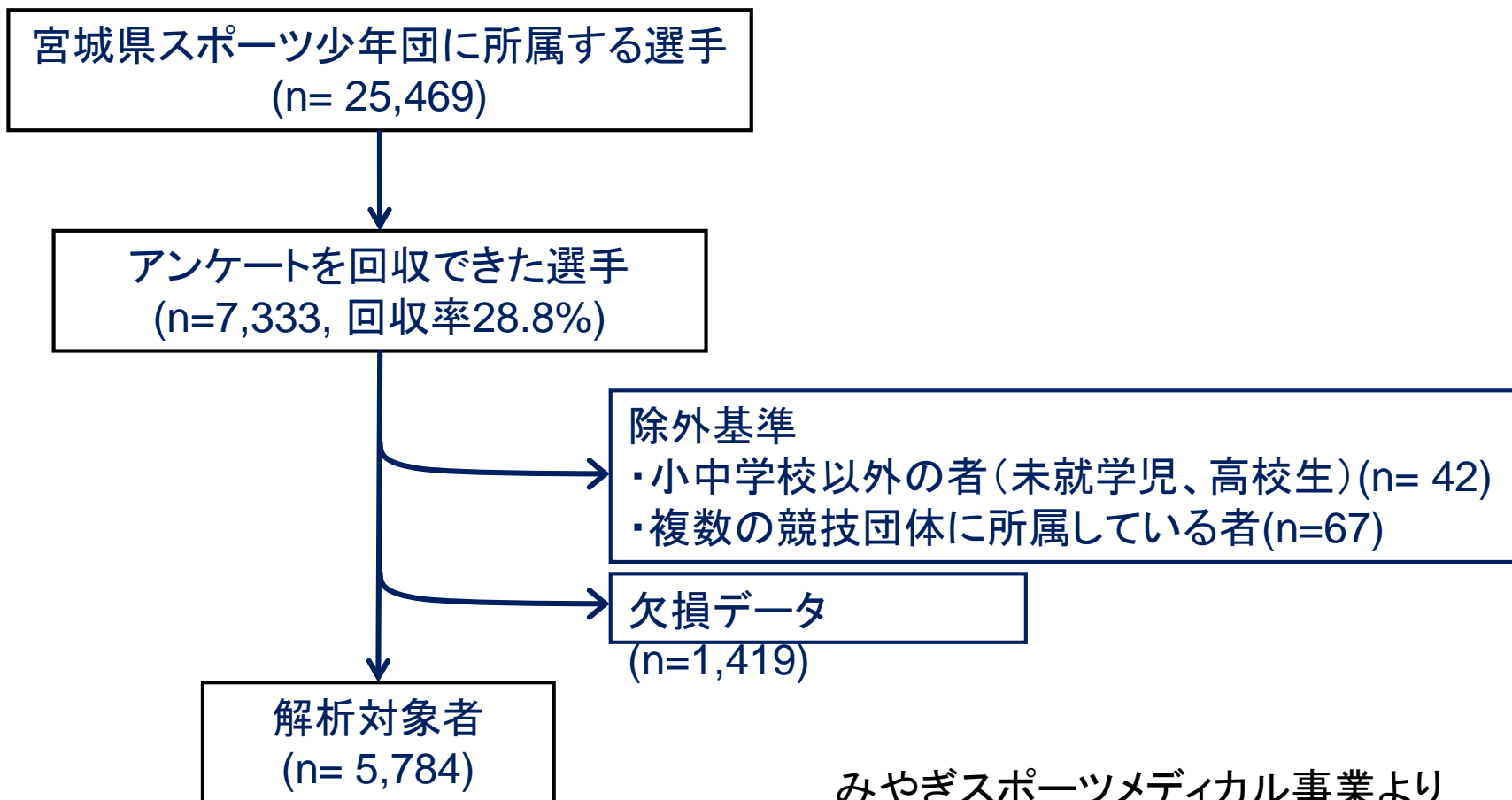
2つ以上の少年団に所属している場合、それぞれの少年団から同じ  
アンケート用紙が届きます。主にがんばっている方、または、競技成績  
がいい方など、どれか1回のみ、アンケートに答えてください。

みやぎスポーツメディカル事業より



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 解析対象



みやぎスポーツメディカル事業より

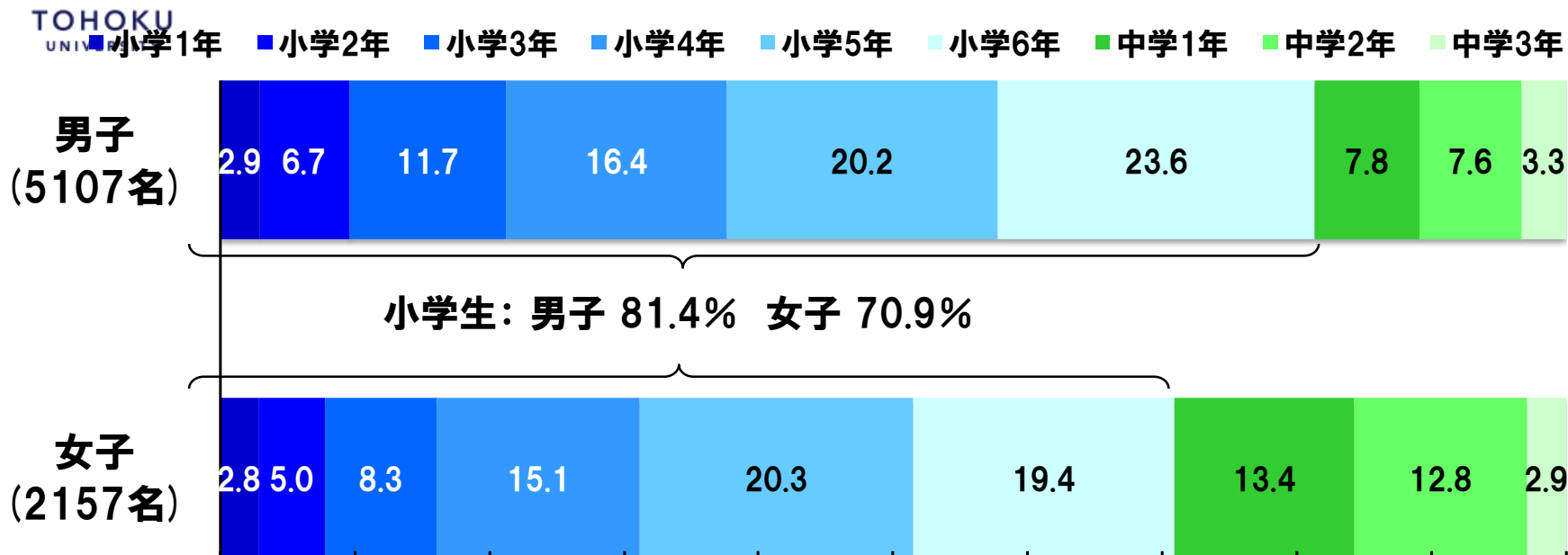
東北大学大学院医学系研究科倫理委員会の承認(2016-1-634)を受け実施





# 学年の分布

TOHOKU  
UNIV



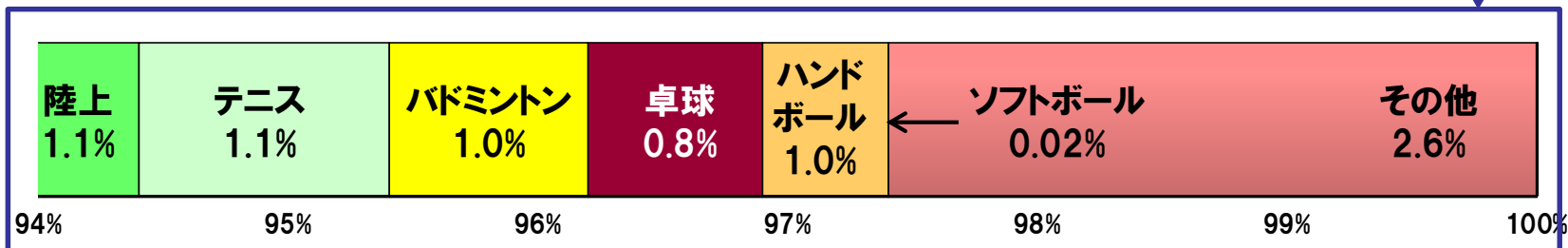
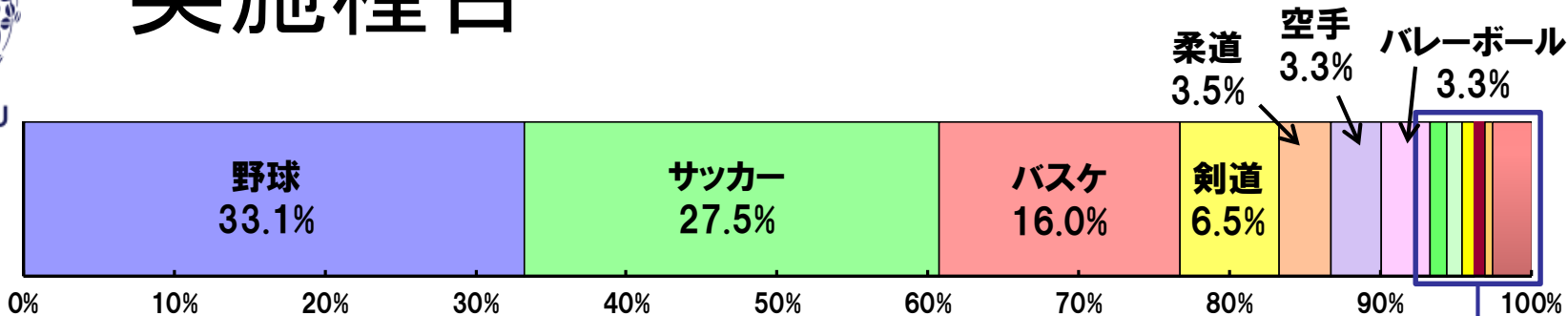
- ・ 回答者の男女比は、男子が約7割、女子は約3割。
- ・ 男子は女子に比較すると、小学生の割合が多い。



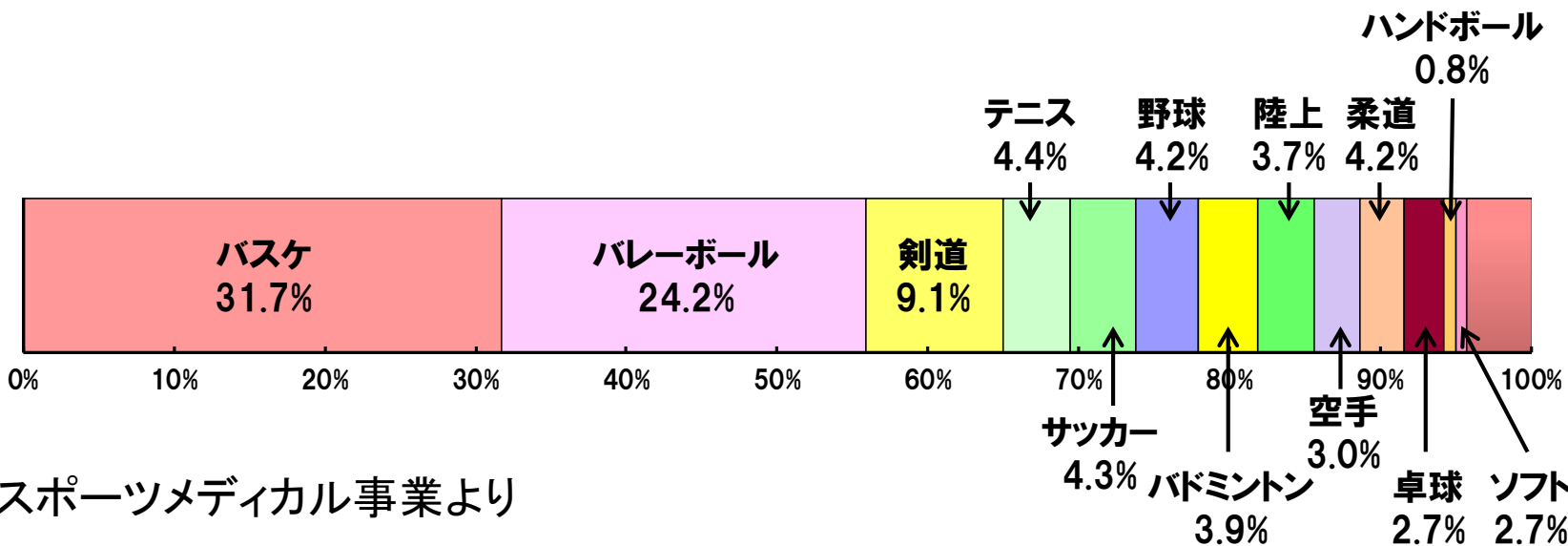
# 実施種目

TOHOKU UNIVERSITY

男子  
(5067名)

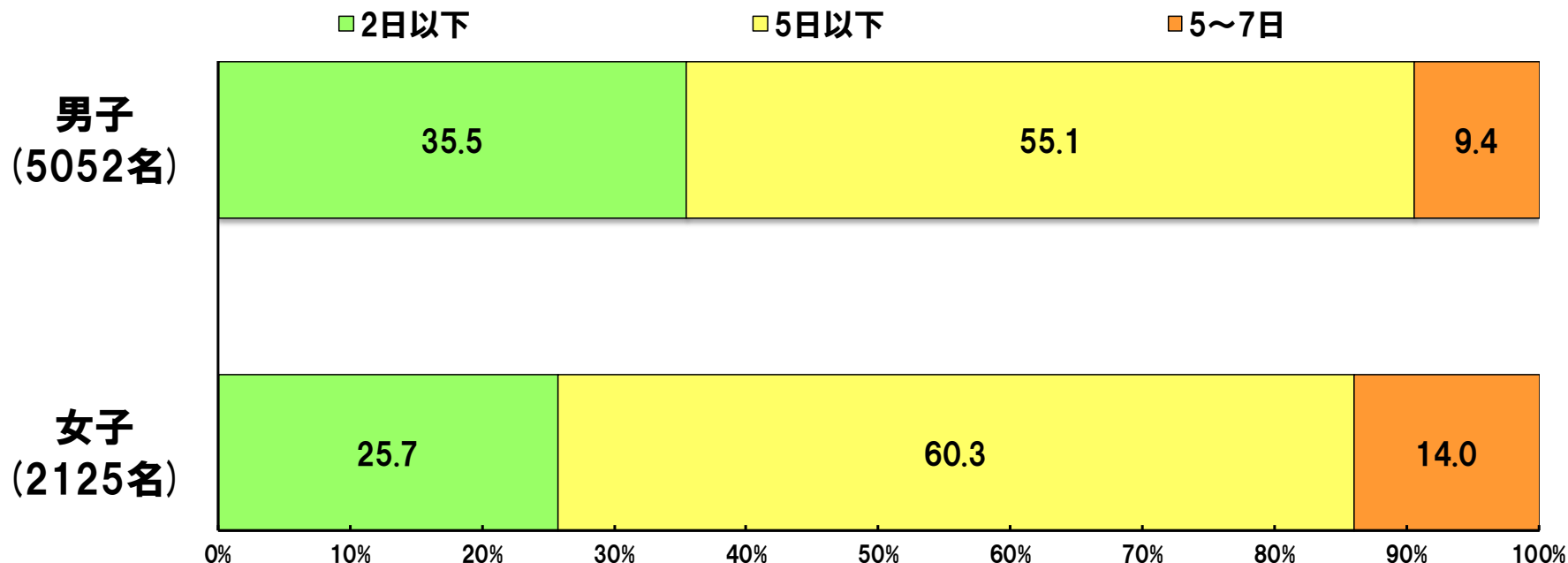


女子  
(2138名)



みやぎスポーツメディカル事業より

# 1週間当たりの活動日数



□ 男子に比べて、女子のほうが活動日数は多い

# 練習時間 | 平日

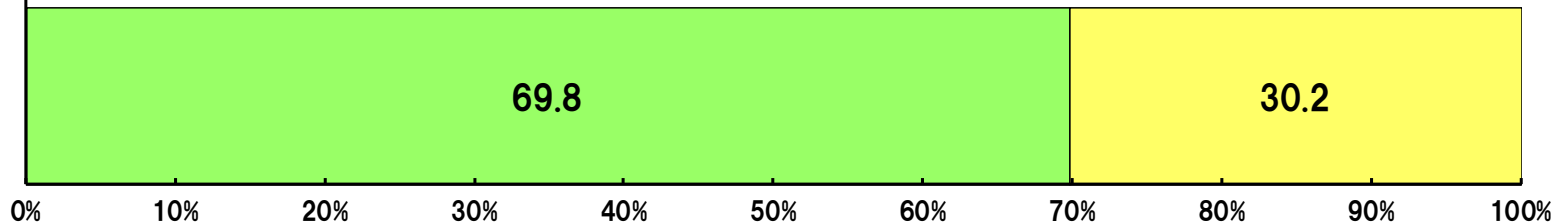
■ 2時間以内

■ 2時間を超える

男子  
(4752名)

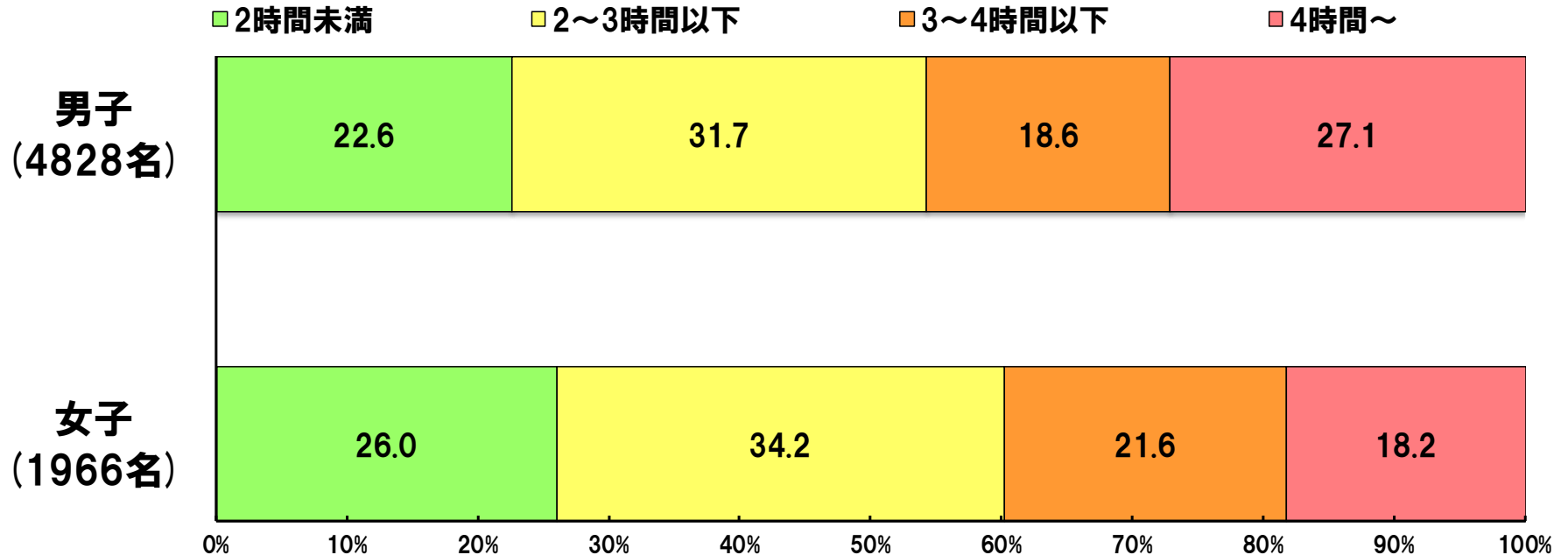


女子  
(2056名)



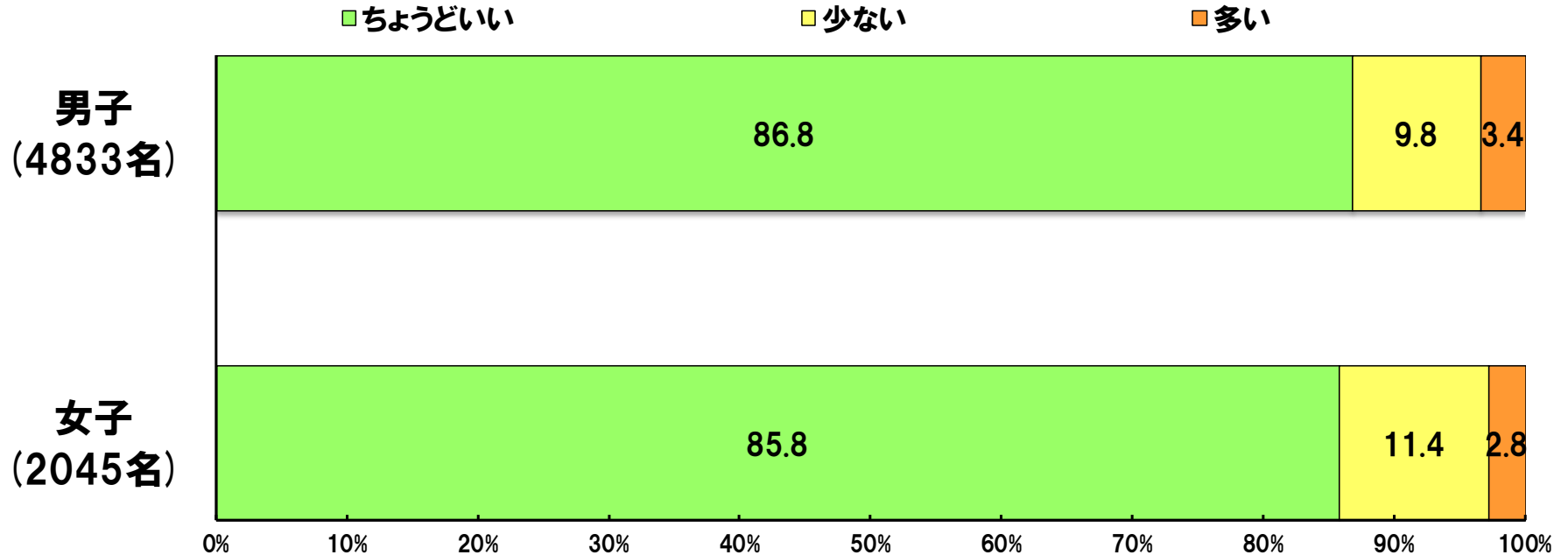
□ 男子に比べて、女子のほうが平日の練習が2時間を超える割合が多い

# 練習時間 | 休日



□ 女子に比べて、男子は休日の練習時間が長い。

# 休憩の程度



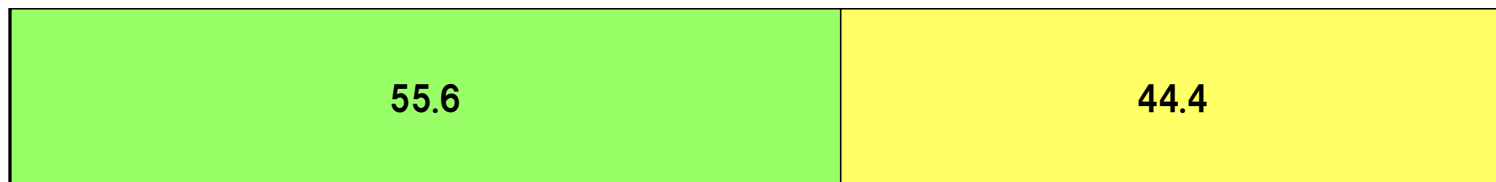
□ 男女ともに、練習中の休憩をちょうどよいと感じているのが大多数

# 怪我の経験の有無

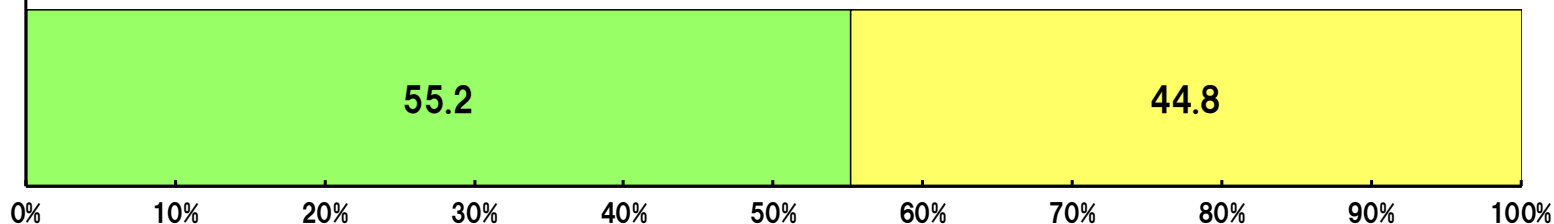
■なし

■あり

男子  
(5110名)



女子  
(2157名)



□ 男女ともに、約45%の子どもが活動中に怪我をした経験がある

# 痛いところの有無 | 全体

■なし

■あり

男子  
(5056名)

76.4

23.6

女子  
(2140名)

70.7

29.3

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

- 全体として25%前後の子どもが、痛みを訴えている。
- 男子に比べ、女子が多い。





# 3週間以上前からの痛み | 全体

■なし

■あり

男子  
(5056名)

90.3

9.7

女子  
(2140名)

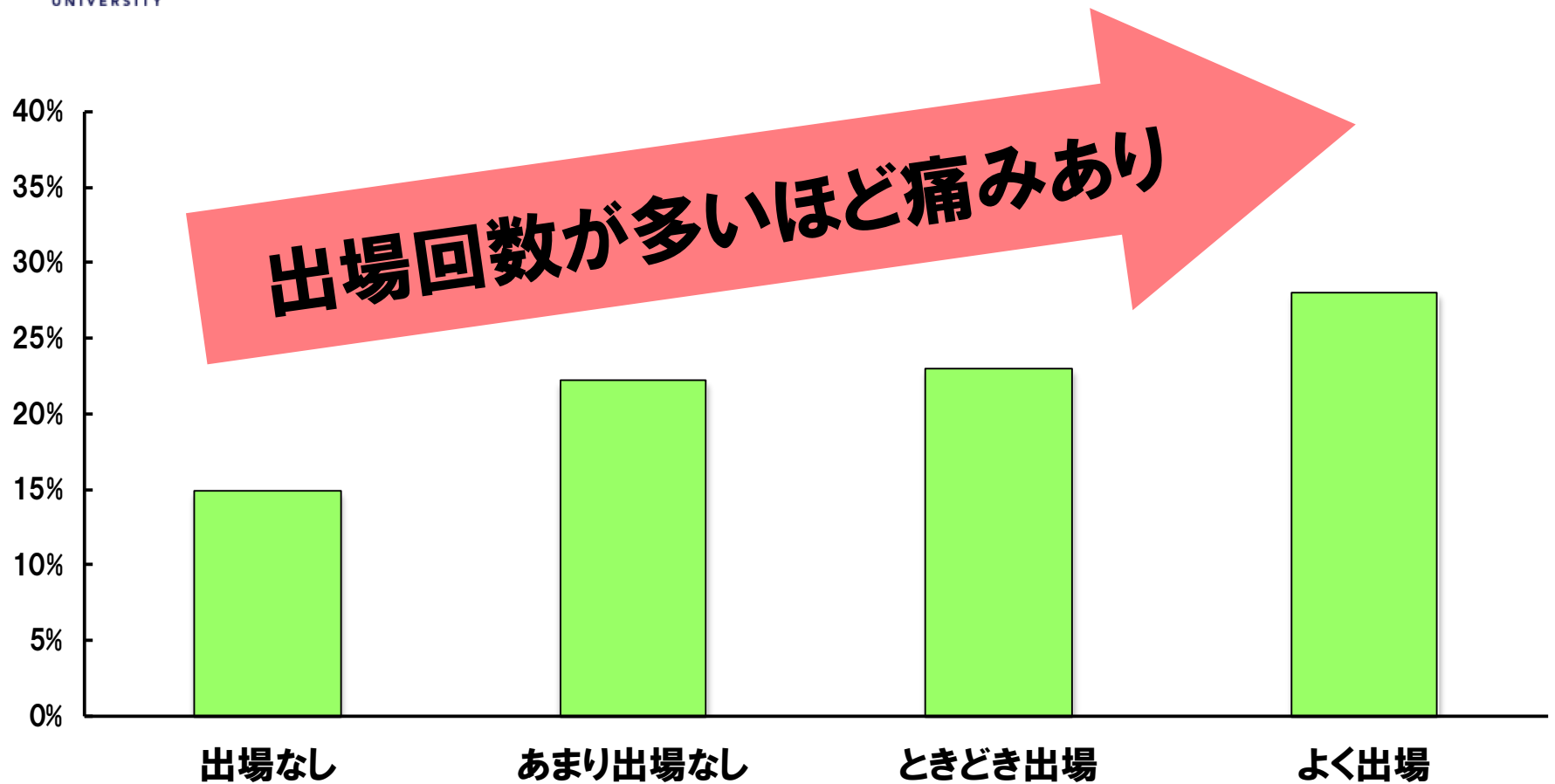
88.0

12.0

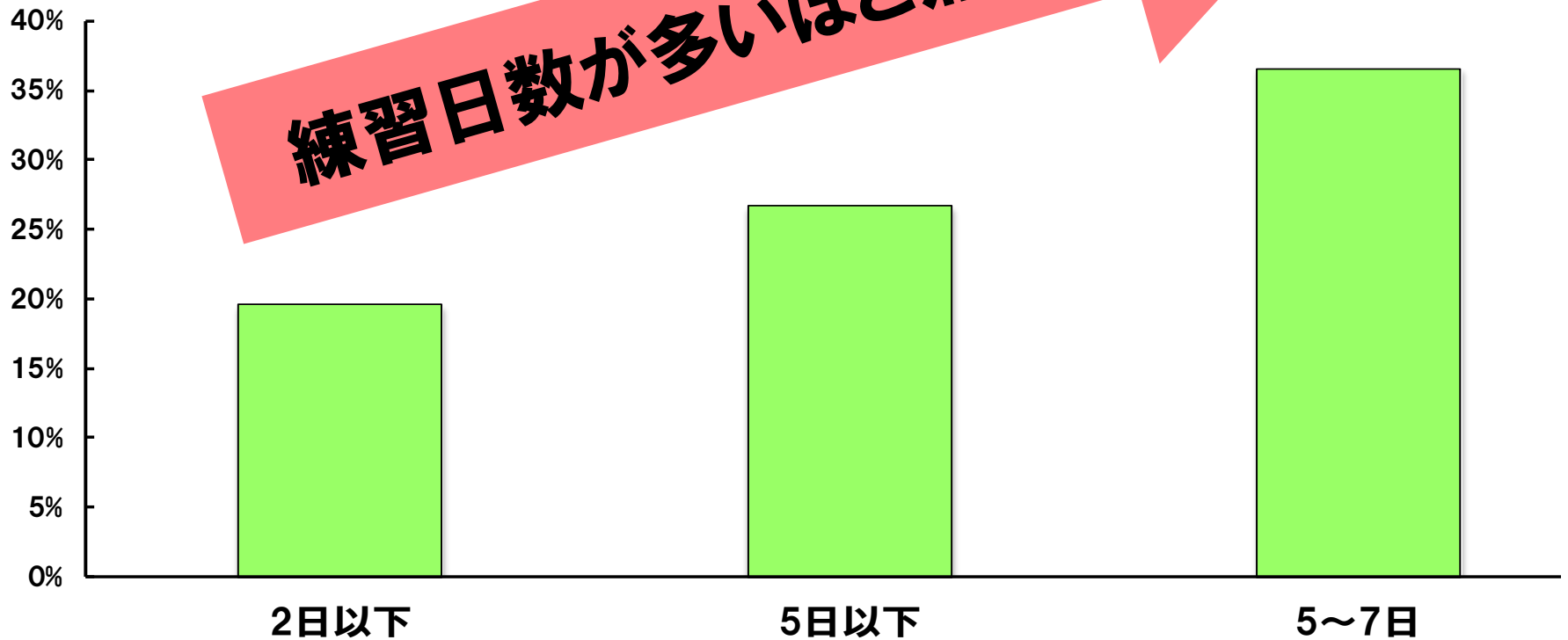
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

□ 10%前後の子どもが、3週間前以上続く痛みを訴えている。

# 出場回数と痛みに関連

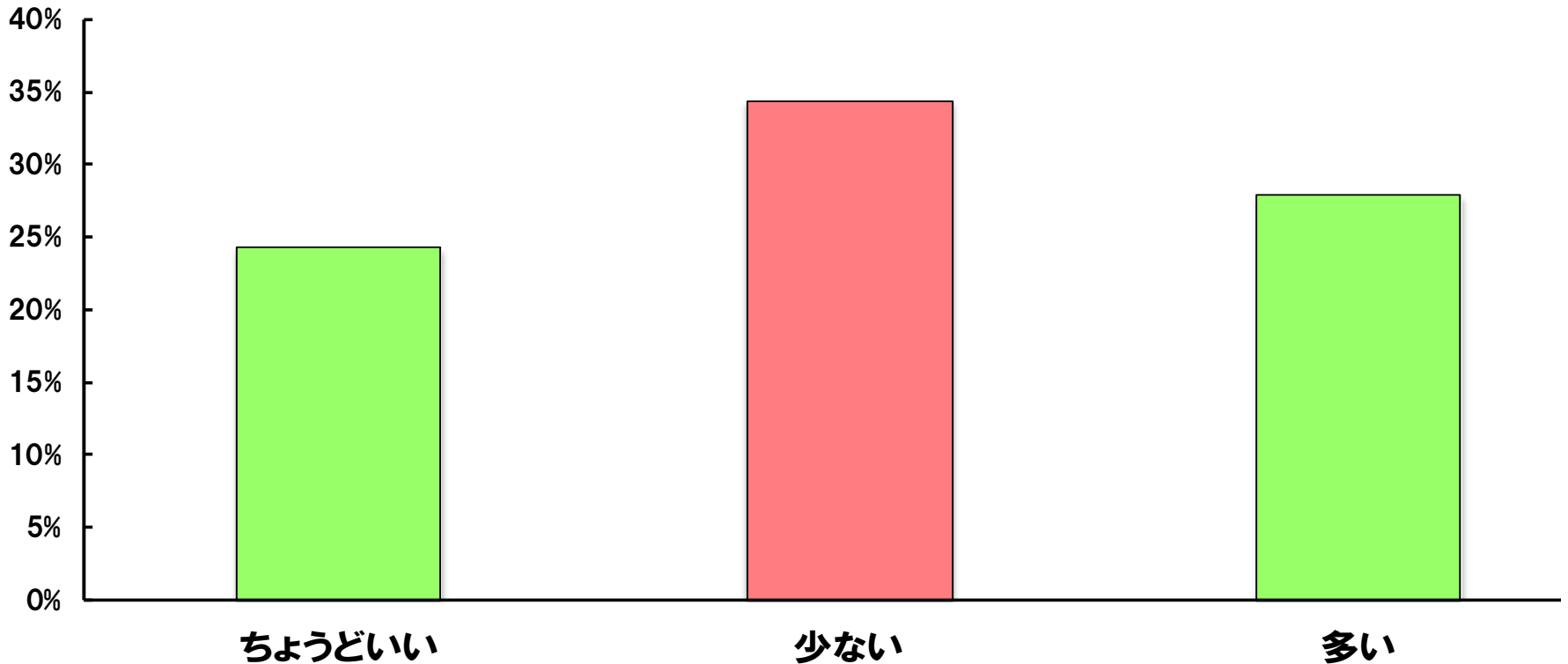


# 練習日数と痛みの関連



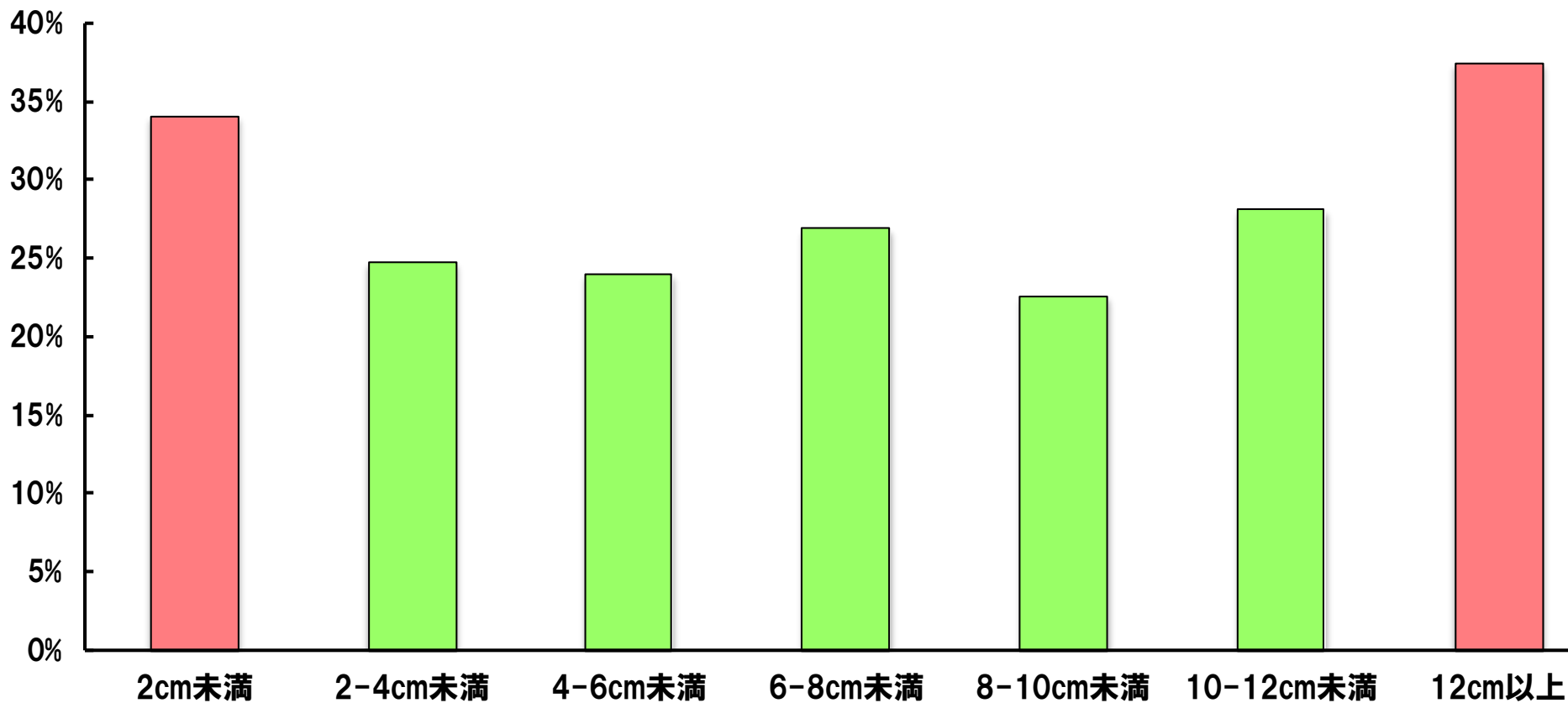
# 休憩の程度と痛みの関連

休憩が少ないと感じている子どもで痛みを訴える割合が高い



# 身長伸びと痛みの関連

身長伸びが2cm未満と12cm以上で痛みの割合が高い





## 監督による叱責・身体アプローチと痛みの関連

**監督から自分もしくは仲間に対して、**

- ・ひどいことを言われた経験がある**
- ・殴られたり蹴られたりした経験がある**

**痛みを訴える割合はそれぞれ有意に高い。**

Kuroki et al. 投稿中

みやぎスポーツメディカル事業より



TOHOKU  
UNIVERSITY

# どうやって調べた？

## ➤ アンケート 威圧的指導

- 監督やコーチから“ひどい”と感じることを言われたことがありますか。
- 仲間が、監督やコーチから、あなたが“ひどい”と感じることを言われていますか。
- 監督やコーチからぶたれたり、蹴られたりしたことがありますか。
- 仲間が、監督やコーチから、ぶたれたり、蹴られたりしているのを見たことがありますか。



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 体罰はない！？

威圧的指導	ぶたれた・蹴られた (身体的制裁)	ひどいこと (暴言)
なし	5514	6059
あり	957 (14.7%)	412(6.3%)
活動がつまらない団 員(%)	ぶたれた・蹴られた (身体的制裁)	ひどいこと (暴言)
なし	7.1%	7.7%
あり	13.5%	13.3%

Table 3. Odds ratios and 95% confidence intervals for loss of motivation for the present sport according to the experience of verbal or physical abuse from the coaches.

	Experience of verbal abuse from the coaches		p value
	Absence (n = 5,514)	Presence (n = 957)	
Loss of motivation for the present sport, n (%)	392 (7.1)	129 (13.5)	
Crude ORs (95% CI)	1.00	2.04 (1.65-2.52)	< 0.001
Adjusted ORs (95% CI)	1.00	1.93 (1.54-2.42)	< 0.001
	Experience of physical abuse from the coaches		p value
	Absence (n = 6,059)	Presence (n = 412)	
Loss of motivation for the present sport, n (%)	466 (7.7)	55 (13.3)	
Crude ORs (95% CI)	1.00	1.85 (1.37-2.49)	< 0.001
Adjusted ORs (95% CI)	1.00	1.76 (1.27-2.42)	0.001

Adjusted for sex, age, body mass index, presence of bodily pain, team levels, number of days for training per week, number of hours in practice per day on weekdays and weekends, frequency of participation in games, experience of verbal or physical abuse from coaches.  
OR, odds ratio; CI, confidence interval.

1. Yabe Y., Nagatomi R. et al., Verbal Abuse from Coaches Is Associated with Loss of Motivation for the Present Sport in Young Athletes: A Cross-Sectional Study in Miyagi Prefecture. *Tohoku J Exp Med* 248: 107-113, 2019.





TOHOKU  
UNIVERSITY

# どのような指導者が威圧的指導を行うのか？

## Physically abusive behavior

Experience of verbal abuse by former coaches	Absence	415	205 (49.4)	1.00	
	Presence	868	625 (72.0)	1.85 (1.37-2.50)	< 0.001
Experience of physical abuse by former coaches	Absence	751	434 (57.8)	1.00	
	Presence	532	396 (74.4)	1.30 (0.96-1.74)	0.089
Acceptability for verbal or physical abuse	Absence	971	574 (59.1)	1.00	
	Presence	312	256 (82.1)	2.53 (1.82-3.52)	< 0.001
Satisfaction with athletes' attitude towards sports activities	Satisfied	559	327 (58.5)	1.00	
	Unsatisfied	724	503 (69.5)	1.62 (1.26-2.07)	< 0.001

## Verbally abusive behavior

Experience of physical abuse by former coaches	Absence	751	26 (3.5)	1.00	
	Presence	532	53 (10.0)	2.71 (1.50-4.92)	< 0.001
Acceptability for verbal or physical abuse	Absence	971	34 (3.5)	1.00	
	Presence	312	45 (14.4)	3.89 (2.39-6.33)	< 0.001
Years of coaching	< 4	400	17 (4.3)	1.00	
	4 to < 10	335	22 (6.6)	1.72 (0.87-3.42)	0.12
	≥ 10	548	40 (7.3)	2.45 (1.20-4.98)	0.013

**Yabe Y., Hagiwara Y., Nagatomi R.** et al. The Characteristics of Coaches that Verbally or Physically Abuse Young Athletes. *Tohoku J Exp Med* 244: 297-304, 2018.



# どのような指導者が威圧的指導を行うのか？

- 身体的制裁
  - 自分も厳しい言葉を経験した 1.8倍
  - 身体的制裁は必要だと思う 2.5倍
  - 選手のスポーツに対する態度に不満 1.6倍
- 厳しい言葉
  - 自分も身体的制裁を経験した 2.7倍
  - 自分も厳しい言葉を経験した 3.9倍
  - 経験年数 10年以上 2.5倍



TOHOKU  
UNIVERSITY

# ストレス-スポーツ傷害への心理学的影響

## ➤ パーソナリティ

- 精神的に弱く、周囲とのコミュニケーションが不得意な選手はスポーツ傷害を発生しやすい

*Jackson, D.W. et al. 1978*

## ➤ ストレッサー歴

- ライフ・ストレスの存在はスポーツ傷害の発生、および、傷害の程度に影響する

*Coddington, R.D. et al. 1980; Cryan, P.O. et al. 1983*

## ➤ 対処資源

- ソーシャルサポートの差異は、ライフストレスと身体および精神的健康度に影響を及ぼす

*Cohen, J. et al. 1985*



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 何が大事か！

## ➤ 暴力・暴言 = ハラスメント

- どう指導される側が受け止めるかによって決まる
- 「暴力」や「体罰」が減っても「暴言」や「無視」などに変換されるだけでは状況は変わらない。
- ハラスメントにより心も体も傷つきやすくなる

## ➤ 厳しい指導・愛のムチ

- 信頼関係が成立していなければハラスメント
- 信頼関係が成立しているときに「よい指導」になりうる
- 自分が直接の被害者ではなくても心理的なダメージがある



TOHOKU  
UNIVERSITY

# ハラスメントの潜在的提供者

➤ 指導者（監督・コーチ）

➤ 先輩

➤ 保護者



# 信頼

- 不断の努力
  - 信頼関係は危うい
- 伝える努力と工夫
  
- ガイドラインは目安にしかすぎない



# 謝辞

- 東北大学大学院医学系研究科
  - 黒木薫
  - 門間陽樹
  - 萩原嘉廣
  - 金澤憲治
  - 矢部裕
  - 関口拓矢
  - 板谷信行
- 宮城県教育委員会
- 宮城県スポーツ少年団
- 宮城県スポーツ協会(旧体育協会)
- アサヒ飲料株式会社